

「アジア研利用の手引き」、栄えある第一回目はアジア研図書館です。アジア研をとことん利用するための入り口として、図書館は最適です。アジア研図書館の目玉、「統計」に焦点をあてて、アジア研を使い倒すための極意を伝授します。

## ●アジア研といえば統計、統計といえばアジア研

アジア研は、アジアのみならず、世界の開発途上国、そして経済のみならず社会全般を研究しています。図書館は、これら開発途上国資料の専門図書館として資料収集に励んでいます。特に統計資料については、過去から現在まで、一貫して収集に力を注いできました。

各国の人口統計、社会・経済統計…。統計は各国の状況を知るのに欠かせない資料です。2000年以降、途上国についても、ほとんどの国がネットにこれらの統計を無料公開するようになりました。それでもアジア研図書館はハードコピーを可能な限り買い続けています。無料で公開されているものを購入するのは「無駄」ではないのか？そんな批判が聞こえてきそうですが、もちろん無駄遣いしているわけではありません。ネットで公開されて

いるものはおおむね過去10年以内のもので、それ以前のもを見たいと思ったら、相手国に交渉する必要があるかもしれません。データがきちんと保管されているかどうか、簡単に見せてくれるのかもわかりません。また、公開されているデータは汎用性の高い英訳されたマクロデータのみのももありますし、逆に詳細データのみアップロードされていて、求めるデータを探しにくいこともあります。さらに、先進国ではきちんとアーカイブ化されているところもありますが、途上国の場合、古いデータは順次消去されていく場合も少なくありません。

このように、過去の統計データにあたりたい場合、最終的にはハードコピーに頼らなければならないケースがほとんど。その際、欠号がないことも重要です。統計データは連続性があることで分析できるからです。

最近では「ネットで公開されているから」として、ハードコピーの出版部数を大幅に減少させる国が増えてきました。また、販売をやめてしまう国も多くあります。そのような中であっても、アジア研図書館では欠号がないよう、あの手この手でできる限りの収集を続けています。過去からの膨大で継続的な「統計コレクション」があるのは（たぶん）日本ではアジア研だけ！これを利用しない手は



